

平成20年度第1回日本臨床検査医学会

臨床検査専門医審議会だより

日時：平成20年1月20日(土)11:00~12:00

場所：日本臨床検査医学会 事務所

出席者：宮澤幸久委員長，高橋伯夫，松野一彦，
高木 康，村田 満，水口國雄 各委員長
佐藤尚武 専門医会代表(9名)

欠席者：なし

委員長挨拶

宮澤幸久委員長より開会の宣言があり議事が進行された。

報告事項

特になし。

審議事項

1. 平成20年度臨床検査管理医過渡的措置について
(高橋伯夫 副理事長)

過渡的措置での資格取得申請を今年1年延長することになったため、案内文を臨床病理誌に昨年と同じように掲載するが案内文は高橋伯夫先生が担当することになった。

また、講師は引き続き、渡辺清明先生、高木康先生、佐守友博先生にお願いすることとなった。

臨床検査医管理医セミナー日程について

第1回は、日時：5月25日(日)10:30~15:00
会場：東京医科大学で、

第2回は、日時：11月30日(日)午前中4時間程度、
会場：名古屋国際会議場か津市で、開催することとなり、それぞれ、福武勝幸先生、登勉先生に調整をお願いすることとなった。

なお、後日、第1回セミナーは日程と会場が変更となり、日時：5月10日(土)10:30~15:30 会場：昭和大学医学部で行うこととなった。

2. 日本専門医認定制機構ヒアリングの対応について
(高木 康 理事)

昨年末のヒアリングで、基本領域の専門医制度として問題となっていた点は

1. 研修目標が標準的なレベル1とレベル2に分かれているが両方とも必須なのか。

2. レベル2は高度の内容であり、量質ともに難しすぎるのではないか。

3. 当初は検体検査が主であったが、本年より心電図検査に加え超音波検査などの生体生理検査が加えられているが、この部分についての研修体制について。

4. 特に超音波検査などは超音波専門医との関連はどうなっているのか

ヒアリング結果

1. レベル1は必須であり、レベル2は努力目標として考えている。

2. 必須部分を明確にし、レベル1のみを掲げることとする。

3. 生体検査の研修方略、到達目標、指導体制など明確にされていないので至急整える。

4. それぞれの生体検査を正確に行なうと共に機器の管理、制度管理などを行なえる医師であり、所見は取れるが診断能力は問うていないであった。

このため、「医師像」を年末の理事会で審議したように変更し、「カリキュラム」については、土屋教育委員長、高木総務理事を中心として大幅に変更した。現在、製本を行っていて500部程度を作製して平成20年度受験生、臨床検査専門医に配布することにしたい。

3. 平成20年度第25回臨床検査専門医認定試験実施要領について(高木 康委員)

昨年の試験実施要領をもとに、本年度の試験要領を確認した。

なお、本年度の試験日程は、20年8月2日、3日(土、日)、高木康試験実行委員長により、昭和大学医学部で行われる予定。

4. その他

特になし。

次回以降の日程は、理事会開催に合わせ、以下の通りで開催することとなった。

なお、12月に理事会の予定はないが、研修施設、専門医更新、管理医認定のため開催が必要のため日程調整をした。

第1回：3月29日(土)10:30~11:30

第2回：8月23日(土)10:30~11:30

第3回：11月8日(土)10:30~11:30

日本臨床検査医学会ニュース

第4回 : 12月20日(土)12:00~14:00

日本臨床検査医学会
平成20年度第1回理事会だより

日時 : 平成20年1月20日(土)12:00~15:00

場所 : 日本臨床検査医学会 事務所

出席者 : 宮澤幸久理事長, 高橋伯夫副理事長,
高木康総務理, 玉井誠一会計理事,
米山彰子庶務理事, 矢富 裕, 諏訪部章,
福武勝幸, 松野一彦, 登 勉, 村田 満,
伊藤喜久, 荊原順一, 宮地勇人, 溝上雅史,
三家登喜夫, 小出典男各 理事
戸谷誠之, 中原一彦 各監事
松尾収二(同学院), 佐藤尚武(専門医会),
藤橋和夫(JCCLS)各連絡委員代理(22名)
欠席者 : 熊谷俊一, 石 和久, 犀川哲典 各理事
磯部和正連絡委員(自動化学会)(4名)

開会に先立ち, 功労会員の大森昭三先生 79 歳
(07/12/21 に逝去)の逝去を悼み黙祷を行った。

宮澤幸久理事長より経過報告, 本年度の学会活動目
標も含めて挨拶があり, その後, 諏訪部章理事と溝
上雅史理事を議事録署名人に定めた。そして, 理事
会の決議と発言は, 定款(理事会)第31条4により,
理事会決議は理事の過半数が出席し, 出席した理事
の過半数によってこれを決すること, また, 理事が
発言する際は挙手をして理事長の指名後に行うこと
を確認し, 議事を進めた。

【報告事項】

1. 支部報告

各支部報告の支部例会, 支部総会の予定, 支部地
方会予定, 支部役員の交代等について報告された。

北海道支部報告(伊藤喜久 支部長)

1. 支部総会の予定

第42回支部総会

日時 : 平成20年9月第一週または第二週(予定)

場所 : 札幌医科大学

総会長 : 渡邊直樹 教授

内 容 : 特別講演, 一般演題

東北支部報告(荊原順一 支部長)

1. 支部総会の予定

第40回支部総会

日時 : 平成20年8月上旬

場所 : 未定

総会長 : 諏訪部章

(岩手医科大学臨床検査医学 教授)

内 容 : 未定

2. 支部例会の予定

第31回支部例会

日時 : 平成20年2月9日(土)

場所 : 岩手医科大学60周年記念館

例会長 : 諏訪部章

(岩手医科大学臨床検査医学 教授)

内 容 : シンポジウム「新設?!臨床検査科へ
の対応」

R-CPC

特別講演 宮澤幸久 先生

第19回日本臨床化学学会東北支部総会との合同開催

関東・甲信越支部報告

(玉井誠一 支部長, 宮地勇人支部理事)

1. 支部総会の予定

第20回支部総会

日時 : 平成20年10月4日(土)

場所 : 慶応義塾大学

総会長 : 村田 満(慶応義塾大学 教授)

内 容 : 未定

2. 支部例会の予定

第65回支部例会

日時 : 平成20年5月17日(土)

場所 : ホテルセンチュリー相模大野

(小田急線相模大野駅上)

例会長 : 内山幸信(北里大学東病院 教授)

内 容 : 未定

3. 支部人事変更について

20~21年度 支部長 宮地勇人 教授(東海大学)

副支部長 水口國雄 教授(帝京大学溝口病院)

東海・北陸支部報告(吉田治義 支部長)

1. 支部総会の予定

第47回支部総会

日時 : 平成20年3月9日(日)

場 所：富山国際会議場
総会長：北島 勲
(富山大学医学部臨床検査医学 教授)
内 容：日本臨床化学会東海北陸支部例会との
合同開催

2. 支部例会の予定

第 27 回東海・北陸支部例会
日 時：平成 20 年 8 月 31 日(日)
場 所：静岡文化芸術大学(浜松市)
例会長：米川 修(聖隷浜松病院 部長)
内 容：日本臨床化学会全国学術集会・支部総
会(前川真人会長)と合同開催

3. 支部人事変更について

次期支部長(平成 20 年 1 月 1 日より 2 年間)
溝上雅史(名古屋市立大学医学部
臨床分子情報医学 教授)

近畿支部報告(三家登喜夫 支部長)

1. 支部総会の予定

第 52 回支部総会
日 時：平成 20 年 10 月 18 日～19 日
場 所：兵庫医療大学(神戸市)
総会長：小柴賢洋(兵庫医科大学臨床検査医学)
内 容：近畿医学検査学会と同時開催

2. 支部例会の予定

第 53 回支部例会
日 時：平成 20 年 6 月 15 日
場 所：吹田市(大阪大学)
例会長：日高 洋(大阪大学医学部中央検査部
臨床検査部)
内 容：未定

中国・四国支部報告(小出典男 支部長)

1. 支部総会の予定

第 4 回合同地方会
第 53 回日本臨床検査医学会中国・四国支部総
会(会長 小出 典男)
第 148 回日本臨床化学会中国支部例会・総会
(会長 日野田 裕治)
第 18 回日本臨床化学会四国支部例会・総会
(会長 土井 俊夫)
総会長：大澤 春彦
日 時：平成 20 年 2 月 9 日(土), 10 日(日)

場 所：岡山大学医学部臨床第二講義室
総会長：大澤春彦(愛媛大学大学院医学系
研究科分子遺伝制御内科学)

内 容：

特別講演

1. 疾患プロテオミクスの最前線と臨床検査
野村丈夫(千葉大学大学院医学研究院
分子病態解析学)
 2. 遺伝子診断による個別化医療
三木 哲郎(愛媛大学大学院医学系研究科
加齢制御内科学)
- シンポジウム：糖尿病研究のトピックス
一般演題

九州支部報告(犀川哲典 支部長)

1. 支部総会の予定

第 52 回地方会(第 18 回日本臨床化学会支部総会
と合同開催予定)
日 時：平成 20 年 2 月 16 日(土)
場 所：九州大学医学部 百年講堂
総会長：上平 憲(長崎大学大学院医歯薬学
総合研究科 教授)
内 容：未定

2. 委員会報告

A. 教育委員会(高木 康 理事)

日本専門医認定機構の基本領域学会として専門
医制度認定証発行のための改変を行ったこと、それ
に合わせた卒後研修評価表の作成を行っていること、
そして、指導医のためのガイドライン作成を計画中
であることが報告された。

B. 精度管理委員会

(高木 康 担当理事, 宮地勇人 委員長)

1. 2008 年度の CAP サーベイ実施について

参加希望：105 施設(+未確認 2 施設)

新規参加 4 施設

- ・名城病院
- ・湘南鎌倉総合病院
- ・三菱化学メディエンス 墨田ラボラトリー
- ・横浜市東部病院

参加中止：7 施設

日本臨床検査医学会ニュース

・エスアールエル愛知ラボラトリー(直接参加のため)

- ・相生会大崎クリニック(閉院のため)
- ・虎の門病院分院(他サーベイに参加するため)
- ・星総合病院(予算の関係・病院の実態と合わない)

- ・大垣市民病院(予算の関係・他サーベイで充分)
- ・大阪赤十字病院(予算の関係)
- ・NTT東日本関東病院(予算の関係)

2. CAPサーベイに関するアンケートについて

目的 : 2008年度の募集にあたって、特殊検査項目サーベイ等のニーズを把握する。

回答受領状況 :

1) 前回の500床以上に続いて、350以上500床未満の病院(355施設)にアンケート送付し、30施設から受領

2) 前回未回答の現参加施設(44施設)に再度アンケート送付し、16施設から受領

作業状況 : アンケートの各設問について、現在集計中

C. 遺伝子委員会

(村田 満 担当理事, 宮地 勇人 委員長)

1. 委員会の活動について

委員会設置の趣旨に基づき、委員会活動方針を策定中。

2. 委員の人选

委員会の役割との関係で人选検討中。

参考資料 :

「遺伝子関連検査における現状の課題のまとめ(JCCLS2006年度)」

1) 単一遺伝子病, 薬物代謝, 疾患リスク, アルコール, 肥満, 個人識別等について、標準化の取組みがなされていない。

有用性, 適応, 精度管理の手法, 方法, 報告, 解釈についてマニュアルが整備されていない。

2) 一般消費者(一般医師)が適正に利用するしくみがない。

3) 指導監督, 測定者の資質を評価するしくみがない。

4) 検査機関の登録, 認可, 立入り調査のしくみがない。

5) 外部精度評価の実施項目が限られている。

6) 実態調査と情報蓄積によるフィードバックのしく

みがない。

利用者レポート, 消費者レポート, エビデンス作成, 保険収載の資料作成

7) 保険収載が限られている。

8) 希少な疾患の検査体制の維持が困難である。

D. 標榜科検討委員会

(宮澤幸久 担当理事及び委員長)

第1回標榜科検討委員会議事録

日時 : 平成19年12月27日(木)

16時10分から18時10分

場所 : 日本臨床検査医学会事務所

出席者 : 中原一彦, 宮澤幸久, 高木 康, 福武勝幸, 小出典男, 渡辺清明, 熊谷俊一

欠席者 : 高橋伯夫, 荏原順一, 水口國雄

1. はじめに渡辺理事長から臨床検査科が標榜科となることについての経緯などの説明があった。

平成19年9月医道審議会で、臨床検査科が標榜科として認められ、平成20年4月から政令により標榜が可能となる見込みである。それまでに臨床検査科のあり方を見直し、どのようなものかについて学会としての見解を出す必要がある。標榜科については、①他の領域とオーバーラップしない、②国民からみてわかりやすい、③専門医とは必ずしもリンクするものではない(医師免許さえあれば誰でも標榜できる)。

2. 本委員会の仕事

標榜科としての臨床検査科について、臨床検査医学会としての見解をまとめる。来年4月から認められる可能性が高いので、委員会でまとめた上、必要なら厚労省(医政局総務課)の意見も聞いた上で、理事会の承認を得る。

3. 標榜科臨床検査科は何をすることか

(ア)臨床検査科は検査部と並列する診療科である(科は医師しか名乗れない)

(イ)診療内容としては、検査のデータをより詳しく説明する(セカンドオピニオンの診療)

検査異常を有する患者を診察し、必要ならフォロー他科紹介する(振り分け業務)

既知の検査異常値をもとに病的意義の確認と疾患の推定を行い専門診療科受診が必要な場合は紹介す

る。病的意義が低いと推定されるものは経過観察し、自身の専門領域の疾患は自身で診療する。

その中で自分の専門領域の診療を付加してもよいのでは

(ウ) 特定検診

本年から特定検診が始まり、前向きに取り組むチャンスである

受診勧奨を受け皿として、臨床検査科を考える。特定検診に盛り込んでもらう。

学会としては、臨床検査科を標榜するに当たり専門医管理医であることが望ましいなどを書く。これは(ア)の項に含まれるのではないですか。

特定検診そのものを受けることができるか(特定機能病院では不可? 医院や一般病院では可、大学病院でも検診センターではOK?)

病院の種類に関係なく、自費診療として行なわれることが確認されました。

(エ) その他

外来を持つことが重要、病院に存在をアピールするチャンス

人間ドックや検診、予防医学的なこともできるが、診療科であるので「検診をする科」という表現は避ける。あくまで、「検査などで異常があったヒトをみる科」とする。

標榜科と専門医との関連については、あまり厳しく考えないほうが良いのでは。

臨床検査医の専門性との関連で、検体管理加算が算定できなくなるか

4. 標榜科としての臨床検査科

現代の医療は臨床検査なくしてはあり得ない。一方で医学の進歩はめざましく、すべての臨床検査を理解し、適切に使用あるいはそのデータを正当に評価することは困難となってきた。このような背景のもと、素早く正確に診断を行うためには、臨床検査の結果を正しく解釈し、適切に検査を実施することが必須である。臨床検査科では、検査の異常などを有する患者に対して、検査データの解釈や異常を起こす疾患などを説明し、より詳しい検査を追加、あるいは他科コンサルタントなどし、診断を確定する。その上で、他科や他院への紹介、あるいは臨床検査科でのフォローアップを行う。また、他の診療科からの依頼を受け、診断確定のために、検査結果の専門家的解釈や診断のための検査計画作成など

の、アドバイスと検査実施を行う。

対象は、検診などで異常があった患者、検査異常についてのセカンドオピニオンを希望する患者、他の医師から紹介された検査異常のある患者、さらに特定検診で受診勧奨を受けた患者など。

5. 問題点

すべての検査異常を診られる医師はいるのか。

他科との連携で診る。他科紹介などで対応。

今の臨床検査専門医は診療しないということになっている(検体管理加算料の算定の基本)。

検体管理加算料は薄くなってゆくことが懸念されている

病理医の臨床検査専門医がこれができるか?

病理医や外来診療などを行っておられない臨床検査専門医の意見を聞く

外来をするためには何人の人数が必要か? その人手は確保できるのか?

各施設により状況が様々であり、できるところができる方法で行う

臨床検査科の標榜は大学などの大病院だけではなく、一般病院や開業医でも可能である

特定検診とリンクすると、標榜する施設が増えるのでは?

専門医会の見解を聞く

次回委員会：平成20年1月20日16時から

次回以降、この委員会の委員長は宮澤先生となる

E. 会則改定アドホック委員会(高木 康 理事)

会則改定アドホック委員会議事録

開催日時：2007年12月27日(木)

午後6時～7時20分

会場：日本臨床検査医学会事務所

参加者：

委員；石橋みどり、佐藤尚武、ゞ谷直人、土屋達行、米山彰子

オブザーバー；高木 康、中原一彦

学会；宮澤幸久、渡辺清明

アイウエオ順・敬称略

渡辺清明 理事長 挨拶

有限責任中間法人設立に際して法人化を前提とする定款を作成したが、従来の会則、細則との整合性が取れない部分がある。来年11月には一般社団法人

日本臨床検査医学会ニュース

人になるのでそれまでに定款と細則を整合性の取れた物に改訂していただきたい。委員長は土屋達行、委員は石橋みどり先生、佐藤尚武先生、谷直人先生、米山彰子先生とする。

執行部から担当理事として高木先生、オブザーバーを中原先生にお願いしたい。

議事

1. 分担で改訂するのでなく、各部分を区切って委員全員で見直す。
2. 定款については大きく形式を変えることはできない。
3. 定款をまず最初に見直し、不明箇所、改訂すべき箇所の特定をする。

それに用いるフォーマットを作成し委員に配布する。委員はこのフォーマットに次回の委員会開催前までに委員長まで e-mail で送る。

4. 定款改訂用資料として旧会則を利用する。
5. 使用用語を明確にする。
6. 社員とは第 4 章、第 15 条にあるように理事、監事を指すが、第 16 条の 1 に記されている入社の部分は評議員が選出したものを社員とする。と変更する。
7. 定款を改訂後、細則を定款と整合性をとれるように見直す。

次回の委員会は 2008 年 1 月末、あるいは 2 月初めを予定する。

3. 臨床検査専門医・管理医審議会

(宮澤幸久 審議会委員長)

午前の臨床検査専門医・管理医審議会での報告事項と審議事項が報告された。これは、本審議会だよりもに内容が記載されているため、割愛する。

4. 第 55 回日本臨床検査医学会学術集会報告

(登 勉 会長)

平成 20 年 11 月 27 日(木)～30 日(日)に、名古屋国際会議場で、メインテーマは「進化する臨床検査」～病気予防・診断から治療選択まで～で、本会単独で開催予定。また、11 月 30 日には津市で公開セミナーを行う。2 月にホームページアップ予定。なお評議員に企画についてのアンケートをメールで行うことについて理事会に確認した。

5. 第 56 回日本臨床検査医学会学術集会報告

(松野一彦 会長)

平成 21 年 8 月 26 日(水)～29 日(土)に、札幌コンベンションセンターで開催予定であり、現在、学会運営業者の選定中であることが報告された。

6. 第 57 回日本臨床検査医学会学術集会報告

(宮澤幸久 会長)

平成 22 年 9 月 9 日～12 日に、東京の京王プラザホテルで開催することが報告された。

日程は、ホテルの都合にもよるが、第 56 回学術集会から丁度 1 年の期間が空いているので、準備も支障なくできると思うということであった。

7. 関連団体報告

A. 日本臨床検査同学院(松尾収二 連絡委員代理)

1. 平成 19 年認定試験報告

①二級試験

受験者 967 名 合格者 654 名 合格率 67.6

②緊急試験

受験者 379 名 合格者 346 名 合格率 91.3

③第 1 回遺伝子分析科学認定士試験

受験者 128 名 合格者 103 名 合格率 80.5

④一級試験

受験者 22 名 合格者 微生物 1 名、病理 1 名
計 2 名 登録者総数 204 名

2. 第 23 回「緒方富雄賞」受賞式は下記にて開催した。

受賞者名・日時

日 時：平成 19 年 11 月 16 日(金) 17:00～19:00

場 所：学会館本館

浅利誠志 大阪大学医学部附属病院

片山博徳 日本医科大学多摩永山病院

山館周恒 日本大学練馬光が丘病院

公開講演会

日 時：平成 19 年 11 月 16 日(金) 16:00～17:00

場 所：学会館本館

講 師：谷口 清洲

(国立感染症研究所 感染症情報センター)

題 目：「最近の新興・再興感染症：検査室における感染予防対策」

司 会：登 勉 (三重大学大学院医学系研究科)

3. 部会活動

- ① 微生物部会講習会：平成19年4月29日(日)
9:00～17:00 順天堂大学
- ② 微生物部会講習会：平成19年5月27日(日)
9:00～17:00 順天堂大学
- ③ 微生物部会講習会：平成19年6月24日(日)
9:00～17:00 順天堂大学
- ④ 病理部会講習会：平成19年6月24日(日)
9:00～17:00 日本大学医学部
- ⑤ 循環生理部会講習会：平成19年7月8日(日)
9:00～16:30 文京学院大学
- ⑥ 微生物の英語勉強会を月1回で1年間開催した。

4. 「通信」発行状況

- ① 第32巻 巻頭言の執筆者
春号：伊藤喜久，夏号：中原一彦，
秋号：伊藤機一，冬号：東 克巳
- ② 各号に試験問題解説を掲載している。
- ③ 第32巻春号に二級・緊急試験の平成18年の試験問題と会員名簿を掲載した。
- ④ 第32巻夏号に二級・緊急試験の平成19年の試験傾向を掲載した。
- ⑤ 第32巻秋号に二級・緊急試験の平成19年の試験合格者名簿を掲載した。
- ⑥ 第32巻冬号に平成19年二級・緊急試験問題を掲載した。
- ⑦ 平成20年の教育シリーズは「病理検査」を掲載。
- ⑧ 平成20年の「よもやま話」は吉田 浩先生の「免疫血清検査」を掲載。
- ⑨ 平成20年春号に「遺伝子検査の動向と遺伝子分析科学認定士制度」の座談会を掲載する。

5. 関連学会・団体との会合の報告

平成19年1月25日(木)

認定検査技師機構理事会

2月26日(月)

認定臨床微生物検査技師制度協議会・審議会合同会議

3月15日(木)

認定輸血検査技師制度審議会・協議会

3月31日(土) 日本臨床検査医学会理事会

7月4日(木)

日本サイトメトリー技術者協議会・審議会合同会議

8月23日(木)

認定輸血検査技師制度協議会・審議会

10月10日(水) 認定検査技師機構理事会

10月13日(日)

認定臨床微生物検査技師制度指定講習会

6. 平成20年事業計画

- ① 理事会・各委員会の開催
- ② 講演会の開催
- ③ テキスト作成の準備
- ④ 7月20日 緊急検査士試験実施
- ⑤ 7月26日～8月3日 二級臨床検査士試験実施
- ⑥ 6月14日・15日 遺伝子分析科学認定士試験実施
- ⑦ 10月，11月一級臨床検査士試験の実施
- ⑧ 各関連団体との強化

B. 日本臨床検査専門医会(佐藤尚武 連絡委員代理)

平成19年度に実施した日本臨床検査専門医会平成20・21年度会長，監事選挙結果に基づき，新役員が決定し新体制となった。

会長：渡辺 清明

監事：高木 康，水口 國雄

副会長：熊谷 俊一，渡邊 卓

常任幹事：佐藤 尚武，矢富 裕，宮地 勇人，

土屋 達行，佐守 友博，村田 満

全国監事：市原 清志，今福 裕司，大谷 慎一，

小出 典男，犀川 哲典，館田 一博，

橋本 琢磨，深津 俊明，藤田 直久，

松野 一彦，保嶋 実，伊藤 喜久，

康 東天，熊坂 一成，木村 聡，

三家登喜夫，前川 真人，満田 年宏，

宮澤 幸久，山田 俊幸

1. 第1回全国・常任幹事会が開催される予定である。

開催日：平成20年1月25日

場所：日本臨床検査医学会事務所

2. 平成20年度日本臨床検査専門医会教育セミナーの開催について

第70回：慶應義塾大学医学部 村田 満 教授

4月19日(土) 開催

第71回：昭和大学医学部 木村 聡 助教授

5月11日(日) 開催

第72回：東海大学医学部 宮地勇人 教授

5月24日(土) 開催

日本臨床検査医学会ニュース

3. 第5回 GLM 教育セミナーについて
5月25日(日) 都市センターホテルで開催予定
責任者：東海大学 宮地勇人 教授
4. 第18回日本臨床検査専門医会春季大会について
平成20年5月30, 31日に神戸大学大学院医学系研究科の熊谷俊一教授を大会長として、
神戸ポートピアホテル、臨床研修情報センターにて行われる予定である。
5. 第31回日本臨床検査専門医会総会、第2回全国・常任幹事会が開催される予定である。
開催日：平成20年5月31日
場所：臨床研修情報センター
6. 平成20年度第26回日本臨床検査専門医会振興会セミナーを開催する予定である。
開催日時：平成20年7月18日(金)午後2時より
会場：東京ガーデンパレス
7. 第32回日本臨床検査専門医会総会、講演会を開催する予定である。
開催日：平成20年11月27日(木)
場所：名古屋国際会議場
8. 平成20年度第3回全国・常任幹事会を開催する予定である。
開催日：平成20年11月27日(木)
場所：名古屋国際会議場

C. 日本臨床検査標準協議会 (藤橋和夫 連絡委員代理)

1. 委託事業

1-1 「臨床検査用標準物質の研究開発」

本委託事業は2006年に(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)から(独)産業技術総合研究所(産総研)に3年計画で委託された事業であり、産総研とJCCLSの協体制で実施している。その概要は、純物質系、実試料系の標準物質の研究開発と標準物質開発の可能性および有効性を評価する調査研究項目に分類してある。

1-2 「臨床検査用分析装置における自動校正システムの開発に関するフィージビリティスタディ」

本委託事業は今年度に(財)機械システム振興協会からJCCLSに委託された事業であり、(社)日本分析機器工業会と(社)日本臨床検査薬協会との協力で実施している。特に本年は初年度であり、平成20年度から施行されるメタボリック症候群の新健診8項目を対象として、トレーサビリティの状況やそれ

を確保するための対策等を検討している。

1-3 「遺伝子関連検査に関する標準化のためのフィージビリティスタディ」

本スタディは昨年度に引き続き経済産業省からフィージビリティスタディとして委託を受けた事業であり、委員会は遺伝子関連検査標準化専門委員会(親委員会)と二つのWGから成っている。WG-1は遺伝子関連検査を「核酸検査」「遺伝子検査」「遺伝学的検査」に分類し、包括的ベストプラクティス・ガイドラインの作成を意図している。具体的には今春OECDの理事会で承認された「OECD Guidelines for Quality Assurance in Molecular Genetic Testing」が勧告として採択されたのを受けて、本WGではこの内容を参考とし、上記3分野について、日本版のベストプラクティスを作成する。次にWG-2では遺伝子関連検査における検体管理マニュアルの作成を意図している。上記の3分野においても検体の収集、取扱、保管および運搬等は遺伝子関連検査の標準化を推進する上に最も基本的な事項であるが、ビジネスとは無関係であるので、ややもすると検討されにくい分野であるためこの委託事業で取上げることとなった。また、ISOTC212に日本から提案をしていた「遺伝学的検査一質と能力に関する要求事項」は来年度から正式に議題として取上げられる予定であり、この委員会での内容を国際的にも反映していく。

2. JCCLSの主な委員会

2-1. 「標準物質の管理体制の構築」に関する委員会

標準物質に関するトレーサビリティの概念が導入され、これに基づく標準化が国際的に進められている。我が国においても(独)産業技術総合研究所(NMIJ)を中心とする基盤整備が求められており、国際計量研究連絡委員会(略称、国計連；事務局はNMIJ内)の中に臨床検査標準関連分科会が設置された。また、経済産業省と厚生労働省が協力して、メタボリック症候群健診対応の標準物質の整備を推進させる体制が立ち上げられたところでもある。

このような背景から臨床検査分野における標準化活動を標榜する組織としてのJCCLSは標準物質の一元的管理を担う体制を構築することとした。

2-2. 「標準的な健診・保健指導プログラムにおける血液検査8項目のトレーサビリティに関する指針」

作成委員会広く標準的な健診・保健指導プログラ

- ムにおける血液検査 8 項目について、トレーサビリティの概念、日常検査法との関係等を解説し、標準化の側面から健診事業への支援を意図した。
- 2-3. 「Joint Committee on Traceability in Laboratory Medicine (JCTLM)」
- 本年度は 10 月に北京で「Asian Pacific congress of Clinical Biochemistry」との同時開催と 12 月にパリの国際度量衡局 (BIPM) で定例会議が開催された。
- 2-4. ISOTC212
- ・ ISO 総会が 5 月 21 日～5 月 23 日にかけて北京で開催された。
 - ・ WG-2 の会合が 9 月 3～4 日にかけてパリ市で開催された。
3. 学術集会
- 毎年恒例の JCCLS 学術集会を以下の内容で平成 19 年 8 月 25 日に開催した。
- ・ CLSI 次期会長 Gerald A Hoeltge の講演
 - ・ NEDO 委託事業について
 - ・ 標準的な健診・保健事業実施のポイント
4. 次年度の主な活動計画
- 4-1. 委託事業の推進
- 4-2. 「標準物質の管理体制の構築」に関する委員会
- 4-3. 国際会議 (JCTLM, ISOTC212etc) への対応
- 4-4. JCCLS の設立された各種委員会
- 4-5. 出版事業
- ・ 標準的な健診・保健指導プログラムにおける血液検査 8 項目のトレーサビリティに関する指針や標準採血法ガイドラインなど
- 4-6. その他
- ・ 学術集会
 - ・ JCCLS 認証標準物質の次 Lot に関する作業 (ChE, ERM etc)
- D. 日本臨床検査自動化学会
(高木 康 総務理事 桑 克彦 連絡委員欠席のため)
- 平成 20 年度事業予定
1. 会議等
- 4 月
- | | |
|-------------------|------|
| 第 1 回理事会 | 4/25 |
| 第 1 回 POC 推進委員会 | 4/25 |
| 第 1 回チーム医療実践推進委員会 | 4/25 |
- 第 1 回遺伝子 プロテオミクス技術委員会 4/25
- 第 1 回科学技術委員会 4/26
- 7 月
- 茂手木賞選考会
- 座長選定委員会
- 10 月
- | | |
|-----------------------|-------|
| 第 2 回理事会 | 10/9 |
| 評議員会 | 10/9 |
| 拡大編集委員会 | 10/9 |
| 第 2 回遺伝子 プロテオミクス技術委員会 | 10/9 |
| 第 2 回科学技術委員会 | 10/10 |
| 第 2 回 POC 推進委員会 | 10/10 |
| 第 2 回チーム医療実践推進委員会 | 10/11 |
- 総会 10/10
- 会計監査 平成 20 年 3 月
- 編集委員会 平成 20 年 3, 10 月
2. 大会, 春季セミナー
- 第 40 回大会
- 平成 20 年 10 月 9 日(木)～11 日(土)
- 大会長 桑 克彦, パシフィコ横浜
(共催展示会 10/9～10/11)
- 第 22 回春季セミナー
- 平成 20 年 4 月 26 日(土)
- 例会長 保嶋 実 弘前大学教授
3. 委員会活動
- 技術セミナー (科学技術委員会, 遺伝子 プロテオミクス技術委員会, POC 推進委員会, チーム医療実践推進委員会) 平成 20 年 10 月 9 日(木)
4. 刊行物
- 日本臨床検査自動化学会誌 33 巻 1～5 号
科学技術委員会マニュアル, POCT ガイドライン (改訂版)
5. 大会開催および予定について
- 2008 年
- 第 40 回 平成 20 年 10 月 9 日(木)～11 日(土)
パシフィコ横浜 桑 克彦 (筑波大准教授)
- 2009 年
- 第 41 回 平成 21 年 10 月 8 日(木)～10 日(土)
パシフィコ横浜 尾崎由基男 (山梨大教授)
- 2010 年
- 第 42 回 平成 22 年 10 月 7 日(木)～9 日(土)
神戸国際会議場 村田 満 (慶応大教授)
- 2011 年

日本臨床検査医学会ニュース

第43回 平成23年10月6日(木)～8日(土)

パシフィコ横浜

6. 春季セミナー開催および予定について

2008年

第22回 平成20年4月26日(土)

弘前 保嶋 実(弘前大教授)

2009年

第23回 平成21年4月4日(土)

山口 日野田裕治(山口大教授)

2010年

第24回 平成22年4月3日(土)

福岡 康 東天(九州大教授)

2011年

第25回 平成23年4月9日(土)

富山 北島 勲(富山大教授)

8. その他(宮澤幸久 理事長)

1) 東京都医療監視事項の中の専門医の項に臨床検査専門医が含まれていない件について

医政局経済課に問合せたところ、広告可能な専門医に登録されていないためとの回答であった。

今春に日本専門医認定制度機構での「基本領域学会」の専門医として認定され標榜科となった際に、厚労省医政局に申告し調査票内に記載していただくことにする。

2) 医療関連サービス振興会「院内検体検査業務に係る検討委員会委員」の推薦について、のなかで、検査部門の審査が給食や清掃など同じ部門で審査されることに問題があるとの指摘に関わる件について

この法律的根拠は、医療法一五条の二、および、医療法施行令第四条の七、に規定されているため。医療関連サービス振興会では臨床検査センターの認定を行っている(丸適マーク)が、病院内に検査センターが設立した「ブランチラボ」については認定が行われていなかったため、この標記検討委員会が設置され、本会からは、木村聡先生(昭和大学北部病院)を派遣委員とした。臨床検査センターの認定については、従来から本学会が中心的な役割を果たしているため、派遣委員を通じて学会として意見を述べていくこととしたい。

3) 本会と日本血液学会との連名で「WT1 mRNA 定量検査 保険適用の施設基準に係る要望」書を1

月18日付で厚生労働省に提出した。

4) 日本医師会 会員の倫理・資質向上委員会から、「医師の職業倫理指針(改定案)」が送付され意見が求められたことについて、倫理委員会担当理事の松野一彦と委員長の村上正巳先生に、ご検討をお願いした。

5) 次期日本医学会 会長、副会長、次期幹事候補者の推薦について

本学会から日本医学会評議員となっている中原一彦先生に、本推薦依頼が届いているが、これについては、評議員の中原一彦先生に推薦を一任した。これに対し、中原一彦監事からは、渡辺清明前理事長と相談して、本会からは特に回答しないとしたことが報告された。

【審議事項】

1. 平成20・21年度役員(案)について

(宮澤幸久 理事長)

平成20・21年度理事の担当について提案され、承認された。

※臨床病理 56巻2号巻頭に掲載済

2. 平成20・21年度委員会委員長(案)について

(宮澤幸久 理事長)

前委員会委員は、細則での任期4年満了の委員がほとんどだったが、委員会の継続性を考慮して、半数程度の委員交代をお願いした。ただ、どうしても継続しての活動が必要な場合は、ほとんどの委員が残った委員会もあるが認めることとしたい。今後は、2年毎に半数交代を原則としていきたい。また、臨床検査技師、臨薬協・日衛協・製薬企業などに所属する研究者、獣医、薬剤師等の方などに所属する研究者、獣医、薬剤師、の方にも委員会委員に積極的に加わっていただくこともお願いした。その上で、平成20・21年度各種委員会の担当理事、委員長、そして委員長から推薦された委員について提示され、承認された。

※臨床病理 56巻2号巻頭に掲載済

3. 臨床検査専門医卒後研修カリキュラムについて

(高木 康 理事)

昨年末のヒアリングで、基本領域学会の専門医制度として問題となっていた点は

1. 研修目標が標準的なレベル 1 とレベル 2 に分かれているが両方とも必須なのか。

2. レベル 2 は高度の内容であり、量質ともに難しすぎるのではないか。

3. 当初は検体検査が主であったが、本年より心電図検査に加え超音波検査などの生体生理検査が加えられているが、この部分についての研修体制について

4. 特に超音波検査などは超音波専門医との関連はどうなっているのか

ヒアリング結果

1. レベル 1 は必須であり、レベル 2 は努力目標として考えている

2. 必須部分を明確にし、レベル 1 のみを掲げることとする

3. 生体検査の研修方略、到達目標、指導体制など明確にされていないので至急整える

4. それぞれの生体検査を正確に行なうと共に機器の管理、精度管理などを行なえる医師であり、所見は取れるが診断能力は問うていない

であった。このため、「医師像」を年末の理事会で審議したように変更し、「カリキュラム」については、土屋教育委員長、高木総務理事を中心として大幅に変更した。現在、資料の内容で数部の製本を行っている。文言等について多少修正して 500 部程度を作製し、平成 20 年度の受験生、臨床検査専門医等に配布することで承認された。

※臨床検査専門医卒後教育カリキュラムは、本誌巻頭に掲載

4. 臨床検査項目分類コード(JLAC10)のユーザー領域設定について(玉井誠一 理事)

特定健診のコードとして JLAC10 が選択されたが、本コードを使用する医療機関、健診機関等の施設内

でのみ使用できる従来のコード体系の 1 桁目に「Z」をつけるユーザー領域設定ルールにより行う本コードにないユーザー領域コード設定を可能とすることについて承認された。

5. 定款「学生会員」について(高木 康 理事)

現在、定款では、「大学又はこれに準ずる学校に在籍し本会の目的に賛同した者で、会費年額 7,000 円を納入する者。」となっているが、これに「なお、大学院生の医師は含まない。」を加えることについて協議されたが、人数も多くはないこと、社会通念上社会人学生等も学生の特権が認められていることもあり、変更は見送られ従来のままとなった。

6. 評議員の再任について(渡辺清明 理事長)

審議会報告でもあった本件について、審議会報告のとおりで承認された。

7. その他

1) 支部長、支部総会、例会、地方会のプログラムが決定したら、必ず、学会事務局にデータをメールなどで送付することが依頼された。これは、学会誌、ホームページに掲載して、日程が近付いたらメールで開催案内を送信するためである。

2) 理事会日程予定について

今後の理事会は、

第 2 回定時社員総会 : 3 月 29 日(土)、

第 3 回理事会 : 8 月 23 日(土)、

第 4 回理事会 : 11 月 8 日(土) 正午からの予定。

閉会の挨拶

最後に高橋伯夫副理事長より、平成 20 年度第 1 回理事会閉会の挨拶がなされた。。